

銀座街づくり会議／G2020 連続シンポジウム

新しい銀座ヴィジョン

未来にわたって銀座が個性輝く街でありつづけるために

GINZA
Machidukuri Council



主催 銀座街づくり会議／G2020

連続
シンポジウム 第3回

世界から見た銀座の都市デザイン

著書に「日本の都市から学ぶこと」において、日本の文化と都市のあり方との関係に鋭い考察を提示したバリー・シェルトンさんに実際に銀座の街を歩いてもらい、建築・街並み・広告の関係・銀座デザインルールの考え方について、批評していただきます。

都市を線上空間の集合構造とみなすヨーロッパと、自立した面のパッチワークと捉える日本（ここでは街路は画地をつなぐサービス動線でしかない）。街路が、見る-見られるための舞台であるヨーロッパと、街路とはあらゆるサインが前面に出、情報が脈動する経路である日本。日本では、建築ファサードデザインも、中で何が起きているかを伝える情報なのだ、と、シェルトンさんは言います。その違いは、漢字・ひらがな・カタカナ、さらにはアルファベットが混在する文字文化に由来すると、シェルトンさんは喝破しました。

銀座デザイン協議会を立ち上げて約10年。明治以来、日本の近代化を担ってきたと自負する都市・銀座は、どのような文化に根ざし、どのような都市デザインを目指すべきなのでしょう？

日時

2016年11月11日（金）
13:30～15:30（13:00開場、受付開始）

場所

銀座フェニックスプラザ3F 会議室
（中央区銀座3-9-11）
<http://www.phoenixplaza.co.jp/>

プログラム

基調講演「世界から見た銀座の都市デザイン」
講師 バリー・シェルトン（シドニー大学名誉教授）

パネルディスカッション

バリー・シェルトン

小林 博人（建築家（KMDW）、慶應義塾大学教授、銀座街づくり会議アドバイザー）

―― 講師プロフィール ――

【基調講演】

バリー・シェルトン

1944年イギリス・ノッティンガム市生まれ。1986年アデレード大学大学院建築学科都市計画修士課程修了。1990 - 97年タスマニア大学アーバン・デザイン学部長、2002 - 09年シドニー大学アーバン・デザイン学科主任兼大学院副学部長、2010 - 13年メルボルン大学アーバン・デザイン学科准教授。2000年バーミンガム・シティ大学客員教授、2007年名古屋大学客員教授、現在、シドニー大学建築・デザイン・都市計画学部名誉教授、専門は都市史・都市理論・都市形態学・都市デザイン。

【パネルディスカッション】

バリー・シェルトン

小林博人

1961年東京生まれ。京都大学、ハーバード大学大学院デザインスクール（GSD）で、建築設計・都市デザインを学び、日建設計、ノーマン・フォスター事務所で設計の実務を行う。2003年日本の伝統的なコミュニティである「町」に関する研究でGSDからデザイン学博士号取得。小林・槇デザインワークショップ（KMDW）を主宰し国内外で建築・都市設計に従事。慶應義塾大学では新しいサステイナブルコミュニティ再生の手法を研究中。

第3回「世界から見た銀座の都市デザイン」

開会挨拶 谷澤 信一（全銀座会代表幹事）

竹沢 皆さんこんにちは。これより銀座街づくり会議およびG2020主催新しい銀座ヴィジョンのための連続シンポジウム第3回「世界から見た銀座の都市デザイン」を開催させていただきます。最初に、銀座街づくり会議評議会議長、全銀座会代表幹事、銀座通り連合会理事長の谷澤信一よりご挨拶申し上げます。

谷澤 皆さまこんにちは。銀座街づくり会議議長の谷澤です。本日はこのシンポジウムにお越しいただき誠にありがとうございます。

銀座を取り巻く環境が、経済状況の変化や外国人観光客の急増、またその購買行動の変化、そして街の景観は、ビルの建て替えで新しい商業施設ができたり、新しい手法を使った広告が出てきたりと、大きな課題と変化があると思います。

銀座街づくり会議では、2014年にオリンピック・パラリンピック対応として街として取り組むべく発足したG2020とともに、銀座の街の価値を向上させて長期的に街のブランド力を維持していく。そして、未来へと個性を放つ街であり続けるために新しい街づくりビジョンを描きたいと思っています。そのために幅広くご意見をお聞きする機会として、本年度と来年度、連続シンポジウムを開催しています。本日はその3回目ということで、シドニー大学名誉教授のバリー・シェルトンさんをお招きして、世界から見た銀座の都市デザインというテーマで開催します。日本と欧米との建築や街並み、広告の手法などの対比、それぞれの良い点悪い点や、特徴、文化的違いなどを解説いただきます。いただいたご示唆は、今後の街づくりにおいて大変貴重なものになるだろうと思います。どうぞ最後までお付き合いくださいようお願い申し上げます。今日は誠にありがとうございます。

竹沢 ありがとうございます。銀座では2006年に銀座デザイン協議会ができ、銀座に新しく建つ建物、工作物、広告のデザイン等について、1つひとつ事業者と協議をしています。その時に、最初からこの色はダメ、こういうデザインはダメという言い方はせず、銀座らしいかどうかということだけを基

準に話し合いをしています。ただ、銀座らしいかどうかということだけではなかなかわかりにくいので、『銀座デザインルール』という冊子を作り、銀座街づくりの考え方、経緯、地区計画のようなルールの説明をし、またこれまでの協議事例をたくさん載せて、こういうことは避けてほしい、こういうデザインが望ましいといった書き方をしています。

しかし、特に最近では、グローバルブランドのお店も増え、何が望ましく、何が望ましくないのか、言葉で明記してほしいと言われるケースも増えていきます。現在私たちは年間300件ほどの案件を扱っていますが、9名のデザイン協議のメンバー、専門家も交えてのメンバーは1つずつ本当に悩みながら意見を出させていただいています。その時に、銀座はどういう文化に根ざし、そしてこれからどういう都市デザインをめざすのかが問われているのだなということを感じています。そうしたなかで、本日はシドニー大学名誉教授のバリー・シェルトン先生に「世界から見た銀座の都市デザイン」というタイトルでお話をいただきます。



谷澤 信一 氏



竹沢 えり子 氏

1. 基調講演「世界から見た銀座の都市デザイン」

バリー・シェルトン

小林 博人

竹沢 今日は英語でのご講演で、小林博人先生が通訳を務めてくださいます。小林博人先生は銀座街づくり会議デザイン協議会のアドバイザーであられ、先ほど申し上げた案件すべてに目を通してアドバイスをいただいている先生です。ではよろしくお願ひします。

小林 今回通訳をさせていただきます小林です。せっかくの機会ですので、できるだけシェルトン先生にたくさん話していただき、要領よく訳そうと思うのですが、なにせプロではないので、ところどころ突っかかるかもしれませんし、間違っているかもしれません。その時はぜひ助けていただき、途中で「それはどういうことですか」と差しはさんでいただいでかまいません。シェルトン先生もそのようにお考えですので、一方的なプレゼンテーションと申っていただくなくて結構です。では、始めさせていただきます。

シェルトン Thank you, everyone for coming. I hope I have something to say which contributes to your ongoing discussion.

今日はおいでいただきありがとうございます。今日の会議、この議論が銀座になにかお役に立つことができればと考えています。

I am known probably best in this country for my book “Learning from Japanese Cities” which has been translated into Japanese and published by Kajima. The interesting thing about this book is that the first edition was written in 1999 and concentrated on spatial culture, the nature of space and how people perceive and treat it in Japan.

今日、私がおそらく日本で皆様方に認知されているのはこの本を通してではないかと思ひます。この『ラーニング・フロム・ジャパニーズ・シティ』という本で、初版は1999年に出ています。そこでは主に空間の文化、スペースといった特徴に特化して書いてあります。

And then, much later, there was a second edition,



the Japanese edition and these added a considerable section on urban structure. For the two parts, the people who influenced me most in Japan, the writers were Ashihara, Jinnai and Maki. And for the second part for urban structure they were theorists concerned with the structure of cities, streets, roads and movement area and generation of activities.

第2版は2012年に出たのですが、特に都市の構造に力を入れて書きました。1冊目のほうは芦原義信先生、陣内先生、楳文彦さんといった方々を引用しながらですが、2つ目は都市理論家のお話をうかがいながら、通りや人の動きなどに注力しました。

I feel that for my comments to be understood I have to explain some ideas from these books to start.

最初に、今日お話しすることをご理解いただくために、この本の内容を少し紹介させていただいてスタートしたいと思います。

3

Every culture has certain predispositions and a

superficial one is perhaps an example, the sun. When most of you were growing up, you probably drew red suns. When I was growing up, I drew a yellow one. These are cultural predispositions.

プリディスポジションというのは頭に入って来る時の概念、入りやすい概念、傾向のことを言いますが、日本らしさの概念というのは、たとえば太陽ですと「日本、太陽、赤」というようにどうしても頭に植え付けられているということがあります。

Much deeper and more important to cities are these predispositions listed here. I think these are really important to understanding some of problems of Japanese cities, Ginza in particular. I'll show a work through them. One is a predisposition in Japan to think areally but in the West it is linear. There is a long experience in Japan of bi-culture, two cultures, Japanese and Chinese, which was very good preparation for the West. The nature of Shinto landscape, which is decentred and scattered. A way of making things, which is additive. And a tendency to build ground and place buildings in Japan.

These may a little abstract at the moment but I hope to explain them.

赤い太陽、実は一番右側は黄色い太陽ですが、そのように傾向として日本というのは、こういう傾向があります。伝統的な空間や形にかかわるものとしては、エアリアル・シンキング、領域的な考え方、面的な考え方です。一方ヨーロッパ的な考え方はリニア、線状の考え方です。ですから、面に対して線というのが、今日のお話の中でわかりやすいと思うので、ご理解いただきたいと思います。それから、バイカルチャーということで、いろいろなカルチャーが混ざりますが、日本は特に中国との関係が強い。それから神道との関係で、中心的なものがあったらすべてが成り立つのではなく、いくつかの中心がたくさん散



らばっているような考え方。それから、ものを加えていってものを作っていく。あるものに対してあるものを加えていく。最後にビルディング・グラウンドという、まずベースを1回作る、そういう考え方が日本の都市の傾向としてあることをご理解いただきたいと思います。

4

He explains better than me. (laugh)

If something is powerful a way of thinking in the culture, you see it through many scales and I'm going to show how areal thinking is to be seen at the level of writing, a written page, architecture and the cities.

面的な考え方というのは、実はいろいろなスケールを伴っていて、決して都市だけではなく、たとえば漢字を書いて、田という字が書いてありますが、その書道などにも面としての図柄が出ています。建築にも出てきますし、都市にも出てくるということで、一貫した日本のカルチャーとして面的な性格があると思います。

5

Your writing system is very spatial. When you learn to write, you are given a page of squares and you have to fit the characters within a square. Each character had the geometry and a centre of gravity. Writing is ought to do with areal placement.

文字のほうで言うと、1枚の紙にグリッドを引いて正方形をたくさん並べてその中に文字を書いていくのが日本の書き方です。ですから、1文字1文字がそこに形を伴って入っていく。その書き方についても面的な考え方です。

When I learnt to write, it was entirely to do with linear spacing. I was given linear tracks and that writing was simply to be written in a single direction.

上に書いてあるのが西洋の書き方で、左から右に順序立ててまっすぐ書いていくわけで、スペーシングが問題になります。このように西洋のほうはリニアにできていて、日本のほうは面的にできていることがわかります。

This is reflected in the traditional instrument for writing. The brush is held vertically and moves in all directions. My pen was for linear scratching. My hand was on the surface. Two entirely different motions.

This may see a long way from Ginza but in fact signs are very important to Ginza and this difference of script is very important to signs.

それは使っている道具にも影響していて、筆で書くといろいろな方向に書ける。ところがペンで書くとき横に書くわけで、筆で書くかペンで書くかにも影響があり、道具にも関係がある。これは銀座には遠い話のように聞こえますが、銀座にはたくさんのサインがあって、そういうサインがどういうふうに表示されているかということは、実はこういうことが関係しています。

6

Even when you are making compound characters, you are still thinking of rectilinear spaces. There are number of geometries for the formation of compound characters. Most compounds fit into these basic patterns. When I look at them, I think immediately of Tatami floors.

漢字を偏や冠だとかにするとき同じように半分に割って水平に切る、あるいは垂直に切るというかたちで、切り方はまっすぐで面を作っていく。これは畳のあり方とも関係していて、スケールが大きくなっていくと日本の建築に関係が出てきます。

I might add that here in Japan, that's much more freedom in mixing elevation and plan in pictures. If you look at this, this is a, in fact, elevation of a cloud and this is a plan of a ground. I think these techniques are familiar to Japanese.

日本の都市を見ても平面にあることを立面をもっていくということがあったりしますが、この漢字も上は雨で、これはどちらかという立体的に見ていますが、下は田んぼで、田んぼは上から見た絵です。ですから、プランなのです。漢字そのものも平面や立体を掛け合わせて作っている。これは非常におもしろい日本らしい特徴だとおもいます。

The process of distorting characters to fit in a smaller area is very similar to some of the biological drawings of different related species

金という字を金偏にするときはギュッと半分縮められますが、これも実は違う種類の魚がこういうふうにあるように、生態的にもこういうことがあるように、非常に自然にそういうことが起こっています。

7

The writing here is also much closer, of course, to pictures than the alphabet script. But the process of change through time is interesting because the original characters which were close to pictures have been made more angular and more square to fit the rectilinear background. Rectangle, the square is embedded in Chinese-Japanese culture.

太陽がこういう図柄になる時は、まだ柔らかい形をしていますが、それが漢字になる時に角張っていったり四角にフィットするように変わっていく。それが日本あるいは中国の文字のカルチャーとしてあります。正方形にフィットする形にだんだんとアレンジされていったというのがおもしろい傾向です。

This has a contributor to a tendency in Japan to mix pictures and scripts, much more freely, also a contributor to the skill of Japanese Anime and a sign making.

右側の絵は文字と絵が一緒の媒体、一緒の図柄として出てくる。こういうことはヨーロッパではあまりないのですが、このうちわのように、絵の上に文字を並べる。これが日本のサブカルチャーのアニメなどによく出てくるのは、こういう文化をもっているからやりやすかったのではないかと思います。

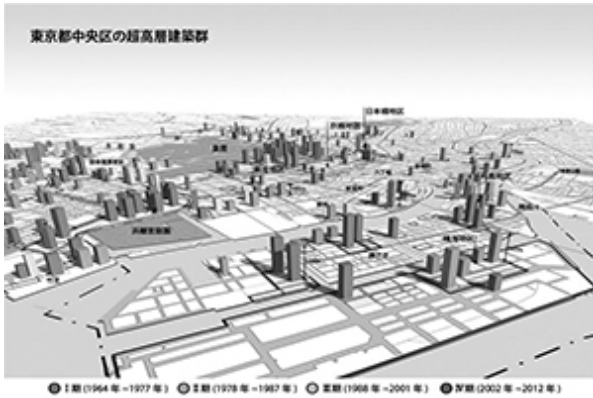
8

When you have a word scramble game in Japan, it's much more of a graphic exercise, more like a jigsaw puzzle. For me, a word scramble is much to do with a linear rearrangement of meaning.

これは、文字を1回バラバラにしてもう1回組み立ててきてもとの原型は何でしょうという、スクランブルという遊びです。上は鳥という文字を切って並



【スライド 23】



【スライド 26】

べて、これはジグソーパズルのような遊びになります。下は西欧のスクランブルで、birdwatcher というのを文字を並べ替えて dribwhaterc となって、これをどういふふうに並べ替えると birdwatcher になるかというゲームです。これを見ても、面的な遊びなのか、線的な遊びなのかという違いが出てくるというくらい、文化的にライティングが影響していることがわかります。

9

I think it's significant that Japanese script is actually composed of three different scripts. But the important thing is each one is recognisable on the page. One is much more angular, another is much more curvaceous and other is more pictorial. So you have a mixing of very different scripts but all are instantly recognised. There is no attempt to synthesize other than keeping them within common squares.

ぼくは最初にこのスライド見た時に何をおっしゃりたいのかわからないくらい、日本では普通に見えてしまうのですが、たとえばカタカナは角張っている、ひらがなはやわらかいカーブでできていて、漢字はもっと絵柄っぽい。このように違った3種類の表現の仕方が1つにミックスされて表現されている。これは非常にユニークだと。そう言われてみるとそうかなと思ったのですが、そういうふうにもいろいろなものをうまく取り込んでミックスして、全体としてトータルなクオリティーを作っていくというのは、この文字の列、表現からもわかります。

10

The result of this is that pages can be multi-directional. If you look at a page like this, it's a both mix of pictures and script. The important thing is that scripts are reading in different directions from right to left, from left to right, from top to bottom. The lines

are arranged from right to left, from left to right and etc. So it is a complete mix. It is a patchwork in other words. If you think of signs, the making of signs and the arrangement in Japanese city, we are getting somewhere close.

この冊子を見て非常におもしろいのは、いろいろな方向から読めます。一番上の「小阪の人々」は左から読めますが、下の尾上ナントカさんは左からで、右の市川ナントカさんは右から左に書いてあります。今では珍しいと思いますが。あるいは右左は上から書いてますが、右から左、左から右というように、つまり、いろいろな方向から書いても成り立っているということが、1ページ開いただけでも起きているのは非常にユニークなカルチャーです。

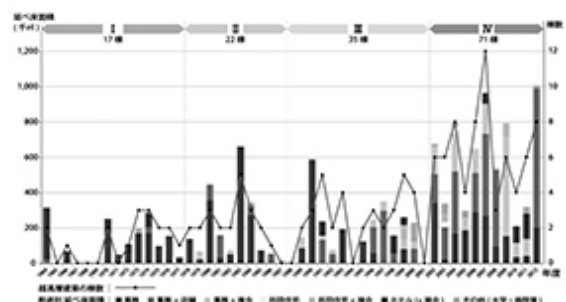
And we see this in the city. Top to bottom, right to left and left to right and mixed script. This is a simple one. Usually you see it much more complicated.

確かにこの写真を見ると、これだけでも3方向から書いてあるのを、僕たちは自然に読んで納得しているわけですが、こういうことが自然にできてしまっているというのが非常にユニークなカルチャーです。

If you add up all those qualities that I have been talking about, this might be seen as a logical outcome. It is mixed script, the script and pictures. It is multi-directional. It is a patchwork or collage. There is no clear centre, no clear edge, no clear hierarchy and it is potentially infinite. When I see something like this, I immediately think of the Japanese city.

最終的にこれを日本の都市として読まれているのがすごいのですが、要は漢字、ひらがな、いろいろな表現の仕方、色や配置、絵が入ってきて、では中心があるかというそれは全然なくて、無限に広がっていく感じがする。それだけの可能性を秘めている。

東京都千代田区の超高層建築群



【スライド 30】



【スライド 40】

これが日本の都市であるというわけです。(笑)

11

All of this that a child meets at a very early age, at a formative stage and that must have enormous impression. I don't think this is an aesthetic to be belittled but want to be celebrated and different.

これは子どもの雑誌で子どもが読むわけですが、こういう考え方を小さい時から覚えていく、感じていくことは大切なことです。これが示しているのは、いろいろな要素を含んでそれが総合して1つに成り立っているということ子どもは自然に覚えていくわけです。これがきれいだとは必ずしも思わないですが、子どもが必要な情報はすべてここに入っていて、非常に機能的でもあり、あなごれない。日本の都市の将来を考えると、そういうことが大切で、子どもはそういうことを教育されていっている。

12

And every person to the architectural heritage, we see a similar emphasis upon area in Japan and on line in the West. It was Ashihara who spoke very strongly of the culture of the floor, the architectural floor and the architectural wall in the West. In fact, the floor is an area and the wall is a line. The floor is autonomous and the wall depends on things being put together in a certain order like a ????

これは左側が日本の建築、右側が西洋の建築の作り方で、場所は先生がここで表現されているのですが、日本の建築は面、エリアを基調にしていて、それは床だったり畳だったりします。一方、西洋の建築は壁でできていて、床と壁の違いがある。この作り方から見ても、先ほどの面的なものか線的なものかという違いが鮮明に表れています。

And of course, the floor is composed of areal units, very similar to Kanji base. And it always amazes me when I am talking to someone who is Japanese and gives me an estimate of a space in Kanji which is a rectilinear unit. I mean I always have been brought up to give a linear measurement by a linear measurement.

この畳、床を数える時は畳で数えますが、それも1つのユニットでできている。先ほどの漢字の偏や冠とすごく関係がある構成でできていて、日本人は広さを数える時に「〇畳」と言って数える。面の枚数で数えますが、西洋の人は何m×何mとリニアに数えるという違いがあります。

13

These caricature situations because the traditional Japanese building has been floor, roof and wished the columns were not there like seen in the Sumo stadium. In the West, there has been a long tradition of even building walls within ?????? infrastructure or recommending certain kind of wall. You must obey the rule of the wall. But you can design something individual behind them.

おもしろいのは、日本は上のほうでできるだけ床面があって空間が水平につながるわけですが、できれば柱がないほうがいい。普通の家だともちろん柱があるわけですが、相撲の会場に行くと昔はありましたが今は吊って柱をなくしています。ですから、これは典型的に床面を作っています。一方、西洋の考え方ではこの広場に面している壁を作ること、その壁のオーダーに従っていかないといけない。ただおもしろいのは、この壁の背後にある所は自由にやってよいというくらい、壁がすべてを規定するのですがその背後では少し自由があって独立して物が作れる仕組みになっている。

14

Here are examples, two timber buildings built about the same time. One Japanese Tokyo, the emphasis entirely on the interior, a plan and the floor. Whereas here in San Francisco, it is all to do with line, façade and exterior. Complete contrasts. This sight might have enormous indications of Ginza where you have a small area occupying a visitor, by people from different spatial perceptions.

これは19世紀初頭同じような時期に作られた建築ですが、左側を見ていただくと屋根がありその中にはプランがあり、そしてインテリアがあることが重要な建築になります。一方、サンフランシスコのこの建築は壁があって、ファサード、正面の面があって、エクステリア＝外側がとても大切である。この2つは象徴的にコントラストを示しています。銀座がおもしろいのは、外国のお客様が見えたときに、特に西洋から見えた時に、右側の考え方をもってきて銀座の中に入ると、銀座の路地のような所にどんどんインテリアが入って来る、そういう空間の捉えかたの違いがとてもおもしろく感じられるでしょう。

Again, historically the most important drawing in Japan has been a plan. And the great emphasis has been on façade in the West.

日本で一番大切なドローイングは平面図になりますが、それが西洋ではエレベーション、立面になります。そこでも違いが出てきます。

15
We'll move to city, of course this is probably best known how Japanese cities are organised in area. The sign here refers to area, not a line. The sign here which is a line refers to a line and an organisation is by street. What we are seeing is a repetition and perceptions at many scales.

これは都市のスケールにいったときで、左側は日本の地図で、〇〇何丁目と面的に押さえられている。一方、右側は似たような絵ですが、通りの名前が書いてあって、ここは〇〇通りというようにリニア、線です。下を見ると、番地の標識も「町（ちょう）」というエリアを表わしていて、右はストリートというラインを表わしています。ということで、やはり面と線の違いがあります。

16
If we combine architecture with a site with town what we have is areas within areas all the way down from Tatami to Cho/Machi.

先ほど漢字から始まった話が都市まで広がったのですが、これを見ていただくと、建築のサイズの畳のスケールから家のスケール、そして街のスケールが同じように入れ子になって面的な考え方が継承されています。

17
Add to this, there has been a tendency in Japan which is also reinforced the areal notion to reform landscape to construct landscape, in other words, to construct flat areas upon which buildings have been replaced by buildings. They are like furniture. This still, the image continues.

それに加えて、建築を作るときに面を作ってそこに家具のように家を置くという習慣があります。棚田や団地の造成のように、水平面を作っていったというのが日本の建築の作り方です。

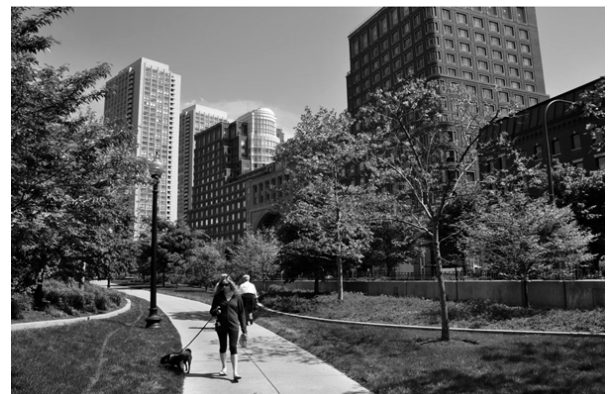
18
And again, a drawing which is very common in Japanese history has been ?????INAUDIBLE. Today we might call it volumetric. The one which was continually put before my eyes as a child was the perspective drawing.

これは上のほうが日本の絵で、全体のボリュームがわかりやすい構成で描かれています。下の西洋の絵はパースがきいていて奥に行くにしたがってリニアにつながっている。線強調ということがあるという違いがあります。

19
We shouldn't against this ??? ground. We shouldn't be surprised by so many signs in Japan on the ground. Perhaps there are less in Ginza than the most other parts and that maybe its part Western character.

日本で床にいろいろなサインがあることを発見しました。これも同じ関係で、床に対する意識が強いのではないかと。

20



【スライド 59】

Similarly there is a great tendency in a long tendency here to construct ground in the former buildings and use a roof as ??????. And I think it is not just precious of the space. It is actually part of the cultural perception. The preoccupation in the West has been much to do with a line in the buildings, line in the street and these are written into ??? elevations.

これを見ていただくと、日本は人工地盤のようなものを作って上に物を作るという絵ですが、これは決して土地が少ないから積まなくてはならないということだけではなく、プレーンという考え方です。屋根の上にまた何かを積んでいく、プレーンという面の考え方が強いからではないか。右側は線が、道路がまっすぐ、リニアであるということだけではなく、軒線が揃えられるという揃え方、これもリニアな考え方で、これが西洋の考え方ではないか。

21

These to me are of the best certain character of all I have been talking about ??INAUDIBLE only get this map in the West which is a map drawn with letters in lines. And this in Japan which is drawn in area with vertical and horizontal rising, it is a summary. But the thing that really confirms to me that the difference as such is that a bar cord which was made in America and a QR cord which was made in Japan.

まさにこれが象徴していると思いますが、左側は通りの名前をアルファベットでリニアに書いていて都市を象徴する。右側は面を描いていて都市を象徴する。これはバーコードとQRコードの違いにも出ていて、日本的なものど西洋的なものの比較になります。

The really interesting thing to me is that this is very inefficient. If you break one small part of this, the whole thing collapses. You take a small piece out of this and the 90% of the information is retained. And this to me reflects very much the nature and the structure of Japanese cities.

バーコードの場合はある1カ所を少し変えてしまったりすると、ほぼ機能なくなってしまう。情報が錯乱してしまいます。QRコードは一部を破壊してもそれ以外が正しければ大体通じる。これはまさに日本の都市と西洋の都市の違いを表わしていて、センターオリエンテッドな西洋の都市は、ある部分が壊れると全部の構造が崩壊しますが、日本の都市は

パッチワーク的に散在することでどこかが壊死しても機能するというような、都市の構造の違いを表わしています。

22

Next few slides we'll run through right quickly because we watched it. But I think it is important to emphasise the bicultural nature of Japanese history it has an impact on Chinese and Japanese. This comes out every walk of life, religion Buddhism and Shinto, language On and Kun, Kanji and Kana in script and almost every aspect of life. This was a very good preparation for coming of the West.

ここで簡単におさらいをすると、中国と日本。日本は昔中国からいろいろなものを学んできました。ということで、バイカルチャー、2つのカルチャーが共存している。仏教と神道、音読みと訓読み、漢字とかな。こういったものが一緒になって存在していることが日本の1つの特徴です。

23

In architecture, even the building which we think of quintessentially Japanese, in fact, is a blatant mix of Japanese and Chinese.

非常に象徴的な金閣寺も中国的な部分と日本的な部分のミックスでバランスをとって作られています。

24

This is seen in the Meiji period with the buildings for an instance of Western exterior, Japanese interior and also a placement of building using a roof as a constructing ground.

これは下関にある明治時代に建てられた建物で、西洋の趣をもっていますが、中に入ると和室があったり障子があったり、上に行くと屋上に日本建築が乗っている。まさにプレーンを作ってその上に日本建築が乗っている。こういう日本の建築と西洋の建築のミックスが明治以降表れてきています。

This might ????? your problem in Ginza today.

今の銀座も、今日本がこうあるなかで、いろいろな文化が入ってきて、それをどのように受け入れて作っていくかという問題とよく似ています。

25

It's continued. This is a massive Western European muscular ??????? plain and inside or you have exquisite woodwork within and you have an interior which is divided down the middle Japanese and the Western.

これは前川先生が作られたアパートです。コルビュジエという近代を象徴する建築家のスタイルを守って日本で作られた近代最初のアパートです。非常に西洋的な近代の感じがしますが、中に入ると木がたくさん使われていて畳の部屋があり、とても繊細な木の使い方をしている非常に日本的です。こういう西洋の顔をもった内側では日本の生活があるというミックスも近代・・・。

26

These previously shown a mix of very different things and I think it is a common practice in Japan to make wholes of identifiable parts, from identifiable independent parts, like an independent staircase in my book I used an example of arcade, where the arcade structure is independent buildings besides here you can have additional stores and within the independent pieces.

見ていただくとわかるように、日本ではそれぞれの独立したものが集まるのですが、それをある仕組み、フレームの中で作ってあげると、それが1つの統一感を持ち得る。ですから、アーケードがあって、でもお店は全部バラバラでいいのです。でもアーケードというもので全体をつなげる、統一感を作る。1つひとつはバラバラなものだけど、ある仕組みでもってそれに統一感をもたせるという仕組みを日本の都市はもっています。それがまさに「パノラマ地図の世界」の表現とよく似たことです。

27

The Shinto landscape, I think, is important in terms of spatial perception. Because what you have is millions of gods, large and small, national and regional, living in the natural built and built environment in the almost even-scattered across the country. It's in decentred and non-hierarchical setting. Again, like a QR cord is like Japanese cities.

神道の考え方、ランドスケープの考え方が大きな影響があるのではないかと。つまり、八百万神（やおよろずのかみ）、神様がどこにでもいる。自然のなかのいろいろな所にいます。それはヒエラルキーがあ

るわけではなく、それらが共存している状態が日本の神様に対する考え方です。それはQRコードと同じで、全体のポチポチが1つのことを表わしていますが、多少壊れても全体が成り立っている。そのように、神道をベースとしたランドスケープ、風景というのも同じで、どこか一部が壊れても全体のクオリティはある程度保たれるという仕組みをもっているのが日本の都市です。

28, 29

In the beginning we come back to the image and move straight onto the Japanese city. At first signs, many images are collage and I think the sign has been so important over the building here because it is so graphic, it has those pictorial origins, it has all flexibility we have been talking about.

こうやって見ていただくと日本人でもワッとと思いますが、1つ前の「たのしい幼稚園」と同じで、いろいろなことがここに凝縮されていて、中心的な何かをもっているわけではなく、どれかがなくなってもある種のクオリティが保たれている。その意味では、これは非常に日本的な文字を含む文化の表れであることはたぶん間違いありません。必ずしもきれいだとは思わないけれど、ということです。そうすると、こういうサインをどう扱っていくのか、今日の議論はそういうことがあるとおもいます。

Again, Ashihara says Japanese cities are more content than form. The Western cities are more form. And the content for him was signs and that was good.

芦原先生の本のなかに、日本の都市は内容がにじみでてくる、内容がたくさんあるのであって、形態や形式でくられるものではない。大切なのはコンテンツのほうだと書かれているようです。この絵が表わすこともそういうことで、たくさんサインが出て



2人の登壇者

きますが、それは形態を規定しているわけではない。

30

When I talk about Japanese cities and given all the comments I've made including those of Shinto landscape, I see no clear centre. I see tall and short across very wide areas and Melbourne, which is a city I have lived in, in fact, all Australian cities you see a very clear centre standing tall and highly centralised.

上の日本の都市の様相は、ブワーツと広がってって、高い建物も低い建物も共存してどこかにセンターがあるわけではなく、共存して成り立っている。下はメルボルンで、シェルトン先生はずっとメルボルンに住んでおられて、今は日本に引っ越されましたが、メルボルンは中心があってそこが都市でそこから周縁があるという、わかりやすい中心性をもっています。これが日本の都市と西洋の都市の大きな違いです。

Ginza might be a centre of it but it is also part of a large land.

銀座は商業・文化の中心です。それが全体の構造の中に成り立っていることを忘れないようにしたいということで、全体のシステムを考えていくことが大切です。

31

If you have a radial city which for instance Australian cities are, it means that all things are concentrated and centred the radial structure. Whereas if you have a more grid-like structure which is areal and Nagoya is a very good example, what you have is an alternating tall and low, tall and low building across the city. There has been a tendency to form superblocks.

上は西洋の都市を象徴していて、都市の集まっている所が高くなっています。下は日本の都市を象徴していて面的に広がっていて、その面のスーパーブロック、これは名古屋ですが、その中では外側に側(がわ)という高い物ができて、中にやわらかい小さい物が集まってスーパーブロックが生まれてくるという傾向があります。

32

The history of superblocks is long here starting with copying Chinese cities which were superblocks and continued through the water city and you see it

today including in Tokyo, especially in the post Kanto earthquake and some of the superblocks are very clear with high buildings around edge almost villages like boulders in the middle.

このスーパーブロックという考え方は、実は平安京からあります。平安京は長安という中国の都市を真似て作りましたが、それはブロックを作っていました。それを徳川家康がコピーして江戸に作りしました。そして関東大震災のあとの絵ですが、そこでもはっきりとそういうものが見て取れます。現在もこうやって見ていただくと、そのブロックの周縁にかたい建物があって中にやわらかいコミュニティーのようなものがある。これはまさに9世紀、8世紀、7世紀ぐらいから来ている。

33

This is simply my diagram, probably the best known of any drawing I have ever done which shows a typical superblock with the intricate centre and the wide broad edges and tall buildings around edge. Now Ginza would not be, well, Ginza certainly has some elements.

これはスーパーブロックを絵にしたものですが、大きい通りに囲われているこの面については高い建物で、中に小さい建物が入っている。銀座もこういのがわがあって中に入るとあんこのようなやわらかいものがあるという構成が見られます。

Superblock is an area, supergrid is areal thinking

これは面的な思考であるということが言えます。

34

With my students, I have done studies of several superblocks, I am not going to explain as we don't have a lot of time, but this is one, Gokiso in Nagoya.

これは名古屋の御器所(ごきそ)という所で、その傾向がはっきり見えます。

35

I round it up very quickly through the essential structure in these blocks. This is applicable to Ginza. You have the wide cross-city global roads that connect one place to a wider area of the city.

まず、大きいストリートがあって、これをグローバ

ルロードと呼ぶと、他とつながって広い通りが街全体のフレームを決めます。

36

There is what I call not local roads but they do connect a superblock next to a superblock so they call glocal streets. So this is a next level of connection but usually quite narrow streets.

これが隣のブロックとつなげるぐらいのスケールの、あまり広くはない、狭くもない通りです。これをグローバルとローカルをまぜてグローカルと呼びます。

37

Then you have your intra local roads which touch the edge.

そして、このローカル・イントラブロックというのはエッジにぶつかって終わるぐらいの小さいスケールのストリート、ローカルストリートです。

38

And you have very local streets which do not even touch the edge and it might resemble those Maki's "Oku"

そして最後に、これは外の外環のがわに接していないぐらいの細くて小さい、プライベートに近い道路ができていて、こういう所に槇さんのいう「奥」というスペースができていきます。

These glocal streets is usually a Shotengai

このまんなかを走るグローカルストリートが大体商店街になっていくというのが典型的です。

変遷

	路上での活動
第1期(1969-1971年) 美濃部 代表的盛り場地区への導入	「遊歩」の楽しみ▼ → 「銀ぶら」復活
第2期(1972-1976年) 美濃部 実施地区の拡大と手法の多様化	→ 中央通りプロムナード
第3期(1977-1995年) 鈴木 地域の象徴的空間としての発展	→ 原宿・表参道「竹の子族」
来街者減少・地域住民反発(渋滞、来街者マナー) 阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件	
第4期(1996-2010年) 石原 実施地区の縮小・廃止	→ 秋葉原サブカルパフォーマンス
都市再生、国際競争、環境配慮	通り魔事件 インターネット普及
第5期(2011年-現在) 増添 歩行者天国の再評価	自己表現活動の収束▼ → 行政+地域主催イベント

【スライド 10】

39

I can't ????? because I realise I forgot to talk about Ginza. I'm not going to theory, just saying my comments on the structure of city are derived from a whole lot of prominent theorists.

これらのことはいろいろな都市の理論家によっていろいろなかたちで表現されています。

40

I would just like to make a few comments on Ginza.

これまで私がいろいろ考えてきた日本の都市ですが、それに基づいて銀座について私の印象をお話したいと思います。

41

I might just add one other part of my experience. People know me for my books on Japan and Hong Kong. But in fact I had a long period of experience as a consultant on Hobart Waterfront. And these are some of the reports of which I was either author or co-author. They go from 1991 to all the reports together more than this. Two of them are very important reports, this one which established an urban design framework for the state capital Hobart and it has a very historical waterfront. Out of this report came in an urban design advisory group and I became a member of this. And it is very similar to the Ginza council because we consult with developers about respective projects. So I am very understanding and sympathetic to the process of consultation. I know how difficult it is.

これはホバート・ウォーターフロントというオーストラリアの歴史的な港町ですが、先生はここでアドバイザーをされて、長い間ホバートのアーバン・デザインについて指導なさっていました。ここでいくつかレポートを書き、もっとも大切なのは2004年のレポートで、そこでアーバン・デザインのフレームワークを決めました。アドバイザリー・グループとしてデベロッパーとコンサルテーションをしてきて、銀座の街づくり会議とかデザイン協議会といった活動と非常に近いことをやってきて、その難しさをよく理解していると言ってくださいました。ありがとうございます。

One thing I know from these experiences, we cannot achieve anything in short time. I was with this process

for 16 years.

ひと言で言えることは、短い時間ではできないということです。時間をかけてやっていかざるを得ない。16年かけてやってきたということです。街づくりをショートカットでやっていくことはできない。時間をかけてじっくりやっていく必要があるということです。

42

Now just touching on Ginza history as I really think it is important thing. When “Bricktown” was built in Ginza, it was an amazing appearance. It was a line culture or line culture-like building typologies cutting through an area culture.

銀座の歴史をひもといてみると、煉瓦街がまずあります。これは西洋の文化であるライン・カルチャーで、それが面的なものをカットして行って作られたということで、これは非常に驚きです。

43

It was this emphasis on facade and of course the facade and sign against the volumetric idea and the plan culture. It was a real clash and it was hard to appreciate on what impact must have been from today.

こうやって見ただけだと、先ほどから言っている日本はプランのカルチャー、平面のカルチャーで、そこにリニアのカルチャーを押し付けたわけで、そこでぶつかり合いが生じてしまい、成し遂げることは難しかった。

44

It's not surprising that things didn't happen quickly.

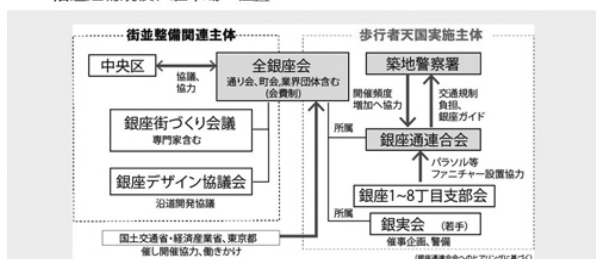
3.銀座の歩行者天国 -継続要因から

警察まかせにしない運営体制

-当初からパトロール、現在交通規制も負担

「銀ぶら」をキーワードとした街並へ

-沿道建物規模、駐車場の位置



【スライド 13】

Tatami mats appeared in amazingly building and advertisement and traditions appeared on buildings and for a long time it looked rather tatty, not like these models constructed in various places.

時間が経つにしたがって、簡単ではなかったけれどアジャストしていった。1つはレンガの建物の中に畳の部屋ができたり、広告が建物に表れてくる。そうやって面的な日本的な都市がだんだんブリックタウンの中に表出していく。ですから模型で見るとなりニアな物でもなかった。

45

If you take those theorists who appeared on the last few slides, you will conclude that real reason of Ginza's success was not so much with buildings on the images but the fact it was between the first station or important station in Tokyo and Nihonbashi which is a traditional centre. In other words, if we squeezed between inaccessible areas, water one side and then the former Palace, the imperial Palace on the other side. So it was, you might say, it couldn't fail simply because of its position, not because of its buildings.

状況を考えてみると、横浜につながっている新橋、西洋からの情報が一番入って来る場所と日本橋を結ぶちょうど間に銀座がありました。そのロケーションと、西側に皇居があり、しかも水ですべてが囲われていて広がるができなかった。このポジショニングから考えると、銀座はそういったことを受け入れつつ変わらざるを得ない。そういう状況にありました。

46

From these Western beginnings, from the position of city, of course, Ginza and particularly Ginza Street have developed as a very powerful line culture phenomenon within Japan. I mean it's iconic within Japan to the world.

こういう状況から銀座がどのようになっていったかということ、非常に強いリニアなカルチャー、西洋のカルチャーを受け入れて、それを育てていく。非常にユニークで珍しいケースとして銀座は成長しました。先ほど以来のお話で、日本はバイカルチャーであったり、西洋のものを受け入れるということがありますから、銀座はその場所性からやらざるを得なかった。西洋のリニアなカルチャーをここで1回受け入れてから銀座は成長していったという、非常に

ユニークな歴史をたどっています。

47

I think nothing shows up more clearly the clash of the dual cultures than the Ginza map where you do have the strong linear streets within an areal division and official areal division INAUDIBLE. It's amazing that the map have survived and given the numerous attempts at various times in history to establish street names, all street names, especially during the American occupation. But it really highlights the two cultures.

これを見てとても象徴的だとおもうのは、左右に流れている銀座通り、昭和通りはまさにリニアなストリートを体現していますが、一方色を見ていただくと、1丁目から8丁目まで色分けしてありますが、面としての丁目が成り立っています。西洋のリニアな考え方と日本のエリア、面的な考え方が共存していることをこの地図は表わしています。それが銀座のとてもおもしろいところです。

48

I don't know how many of you have read Mizumura, one of your novelists and she is also a cultural critic. This book had been an influence on me. She saw English as a universal language and Japanese as a national language. A universal language means something like Latin words in Europe, like Chinese in Japan, it was the international language and Japanese is a national language. She explains very clearly how this leads to national language being brought off as somehow inferior and even the ideas which are expressed in a national language are inferior to the international ones. There are even theories, of course made in the west, to suggest that Japanese script is not a full writing system. To me, this parallels design because Western design theory and models constitute a dominant system and others are viewed as a national. We have this dualism and conflicts being played out in Ginza between international and national.

水村美苗さんの『日本語が亡びるとき』という、日本語とグローバルの言葉である英語という言語と文化についての本ですが、その中で西洋のラテンをベースとした英語がいまや国際語になっている。それに対して日本語やほかの言語はローカルな国の言語として小さなエリアで話される。それぐらい英語

と日本語の違いがありますが、世界の言葉になっていくと、今度は日本語をベースにした日本で作られてきた考え方がそういう世界語、世界の文化と対等でなくなってしまう。劣勢、劣等的な位置になってしまうことがあり得る。これはデザインでも同じことです。ただ、デュアル、両方が共存するという考え方が成り立てば、それは決してどちらかが正しくてどちらかが間違っている、どちらかが強くどちらかが弱い、というのではなく、両方成り立つということが考えられる。特に日本では、そういうデュアルなカルチャーを受け入れてきているので、そういったことがあるでしょう。これはまさに銀座が面している西洋からの大きな流れと日本の独自の文化の2つをどのように合わせるかということととても関係があるでしょう。

49

This situation in design is illustrated in the "Monocle", livable city ranking last year and Tokyo came tops. These are the images which were on the double-page spread to show Tokyo. Many are embedded in Ginza or Ginza-type images. They are very Western and there is not much that Japanese there conflict between.

『Monocle (モノクル)』という雑誌が一昨年、世界で一番住みやすい街ということで東京がトップに選ばれましたが、その時のイメージとしてあげられた写真です。これを見ると、どちらかという日本のというよりは西洋的なしつらえ、モダンなしつらえになってしまっている。これが世界が見る日本の住みやすさだとすると、西洋の人たちの目から見た時の住みやすさ、なじみというのは、こういうリニアな考え方が反映されている風景に入ってしまったます。

50

Very often you get Japanese concepts or Japanese practices here that are later adopted in the West but are abandoned here for the Western INAUDIBLE. One example is Mondermann a Dutch engineer who suggested that we have mix citizen cars and drivers actually become more responsible. This is an example of his work. Even the smallest streets in Europe have sidewalks which of course exaggerates perspective. But this situation is one perhaps not as relevant, nevertheless this is a situation that has existed in Japan for decades.

この絵を見ていただくと、日本であった物が西洋に移植され採用されて、でも日本ではそれが廃れていってしまうということも起きています。たとえばこの写真のように、日本ではいちばん下の写真のように道路が車と人が共存している状態です。ところが真ん中左の写真にあるように、ヨーロッパでは基本的にはサイドウォークと車道は分離されています。ですから、そのラインが強調されるとパースペクティブももっと強調されるというリニアな文化です。これは典型的なヨーロッパの街の風景だったのですが、あるドイツ人（オランダ人？）が日本の考え方を応用したらということ、真ん中の写真は車と人が共存していますが、これはヨーロッパでは珍しい風景です。これは車と人が混在してよいのではないかという日本の考え方を応用させています。一方、歩道は作ったほうがいいよねと私たちは思ったりするわけです。ですから、そういう日本の文化が少し変質している。

51

Here in Ginza, you have retained flat floors. In the very small streets, there are a lot of medium size streets which have been made with sidewalks and with very accentuated and perspective compositions. I really wonder about Western presences. The question is presences.

これは銀座ですが、左の写真のようにかなりきちんとパースペクティブが入っています。右側のように、中ぐらいの通りですが歩道が作られている。これは批判をしているわけではなく、本当に日本の都市のいき方として、いわば西洋の街づくりのコピーをしていっていいものだろうかという問題の投げかけです。日本には混在するというよさがあったわけで、そういったことがこれからの都市でもう一度見直されていいのではないかという示唆です。

52

On advertising, rather than commenting on Ginza, I



【スライド 20】

see a parallel in Kyoto. These are two pictures from newspaper 2015 and 2007. Kyoto is very proud that they now have no animated signs at this district and no rooftop signs. It's been a 60% of reduction inside. But I ask "Is it an improvement?" Again, this is a question that this is a of course part of Japanese tradition.

これは京都です。銀座を考える時に京都を並行して見ていくと、左側が2015年で右側が2007年です。8年のあいだに、市はできるだけ広告を取ろうとして、屋上広告はなくなりました。右側が左のように変わりました。これを整理されてよかったなど見る向きももちろんありますが、一方シェルトンさんの見る日本の文化の中にはサインが建物の表装を飾る文化がずっとありました。そういう文化性を考えると、左側のようにきれいに整頓してしまって本当によいのだろうかという問題の投げかけがあります。これがまさに私たちが毎日頭を悩ませる銀座のデザインです。左側のようになってしまって本当によいのかどうかという問題です。

53

Earlier I was talking about a superblock. I really don't have time to explain but I just conclude it. I couldn't help myself but toy with Ginza as a superblock.

これは先ほど見せていただいたバージョンを銀座でやっていたら、できたばかりです。

The only thing I'll comment on here is that I think there are ????? before superblocks and it extends beyond the present Ginza area here. The important thing is I talked about Shotengai passing through a superblock and here I think the central Chuo-dori is in fact the very sophisticated, very large scale international iconic shopping street within a superblock.

まずこのスーパーブロックの中に中央通り（赤い点線）があります。これがリニアを象徴する、スーパーブロックを貫く通りです。それが非常によく繊細に整備されたきれいな通りとして象徴的にあるということが、まず事実としてあります。

54

Here are your Glocal roads or streets which join superblocks.

次にスーパーブロックにくっついているグローバル・ストリートがあります。

55,56

Here are your Local streets. It really is quite complex. I'll just move to the next one. Here is your former boundary which comes with the express way exceeds but the functional block side actually exceeds ??????.

その細い通りも一緒に入れますが、それに水があり、その上に高速道路があります。私たちは銀座だけを見がちですが、実はこの構造は外も一緒に広がっていつている。その構造の一部が銀座だということも事実です。そういう見方を考えることも必要です。銀座だけに限られた議論ではなく、外との関係も一緒に考えていくことも、こういう作業をしていくとよくわかります。

This kind of structure diagram ????? design ??? streets. INAUDIBLE

ある特別のストリートをデザインするにしても、外との関係が繋がっていますので、考える必要があるでしょう。

57

That is very interesting that the underground streets are put in where the connections between superblocks and districts are most difficult. One thing I would like to say is that I didn't draw very small lanes in my diagram but more private ones. I found someone who had surveyed streets and of course, there are many. The most interesting thing is that where these seem to occur is where there are barriers to all of it and any areas around. What I'm trying to say is that there is a relationship between the nature of superblocks and the structures of Ginza. I think that more work could be done to understand that and this is only a first sketch.



Kobayashi sensei asked a question. INAUDIBLE

Yes, you are more likely to get ??? where connections ??????. I am probably ?????? but ?????? because I am not too familiar. But it's 90%....INAUDIBLE

黄色は地下街で、実は地下街は他の領域と非常につながっていてコネクションを作っています。おもしろいのは、7丁目8丁目の右側にあるように路地がたくさんあります。路地までは描き込めていないのですが、路地のようなものは7丁目8丁目を見ると、たとえば高速道路や鉄道などバリアがたくさんあるわけです。そういった所ほど内側に細い路地が発達したのではないかと。それが先ほどの奥性と同じで、そのように内側に発達していくというのも面的で日本的な文化で、僕は銀座のことはよく知りませんが、おそらく90%???ではないかと。

58

I think that small lanes are such important part of Ginza. In danger of being lost one of Japanese culture?? History??? streets ??? Western ...INAUDIBLE

やはり路地は非常に重要で、どうしても大きなストリート、大きな建物化していくリニアな考え方が強いのですが、そのなかにあって非常に日本的な面性を保つためにも路地は非常に大切です。

59

In the all literature I have read, everyone says, it seems to describe Ginza has been recovered spot. I was very surprised by the fact that the main part of Ginza was an island. And actual building as it so often, the case in superblock rose across the top of a small ??????.

これは彼が発見して、右側の江戸時代の地図を重ねて見てみると、江戸前島という所に島があって、それが実は3丁目から7丁目8丁目くらいまでの場所とぴったり一致しています。中央通りはそれの峰道だったのではないかと。日比谷のほうは沼、入江だったわけですが、そういった歴史と重ね合わせても、この通りはここにあって然るべき通りであったし、それがいくつかの歴史を経て、何枚ものレイヤーを経てここに来ているという非常におもしろい事実が発見されました。

62

I am going to read these but what I'm also said is more people are seeking a convenient urban living for all of these reasons. It does strikes me that Ginza seems to be rather lacking in housing, like many cities are trying to bring housing back or residential back into the commercial area. I just wonder about the problem.

全体を話すことははしらせていただきますが、ポイントは、こうやって見ていくと、世界中の都市で都市に住むということが、地方や郊外にいた人たちが戻ってきて住むという傾向がありますが、銀座で欠けている部分はそのハウジングなのではないか。都市に住むことが楽しい、それが都市の活気につながるわけですが、そういったことを銀座についても可能性があるのではないか。世界の都市の潮流にあるように、都市に人が戻ってきて住みつけるような場所づくりが????（聞き取り不可）ということがもう1つの問題提起です。

63

I think what I highlighted that Japanese, there are two cultures, it's bi-culture in Japan and there are very different spatial concepts and these are seen perhaps more clearly in Ginza's history and in Ginza's most other places. I do ask a very big question is Ginza now erring on the side of the international to marginalise the Japanese when in fact both are important to distinguish.

大切なことは先ほどから話しているように、バイカルチャーということで、東洋あるいは日本と西洋、銀座はまさに日本の中でそれを受け入れてきた非常に特殊なしかも最もその特徴が出ている場所です。世界的な都市の潮流を考えた時に、銀座の銀座らしさ、ユニークさ、価値といったものが、どういうふうに位置づけられるのか。これは日本のカルチャーをもってきて、しかも西洋とのあいだで作られてきたカルチャーだとすると、どういったものなのか。

…..Thank you……. INAUDIBLE

ありがとうございました。これで今日のお話はいったん閉めさせていただきます、引き続きに関連した議論ができればと思います。

2. パネルディスカッション

竹沢 どうもありがとうございました。このあと小林先生との対話の形で進めていただきます。お手元のちらしにはパネルディスカッションとありますが、お二人でお話をしていただき、そのあとで蓑原先生にまとめていただくかたちにしたいと思います。

小林先生は私たちのアドバイザーとしてすべての案件をご覧になっている先生で、先ほどのお話にもあったようにサインのことなどで日々悩んでおられるので、そのようなことを含めてお話いただければと思います。

小林 今日お話をいただいて、私も改めてシェルトン先生が日本の都市に造詣が深くびっくりしました。本も読まさせていただいたのですが、そのなかで、やはり日本には????(雑音のため聞き取り不可)面ということで、?????リニアな部分を、土地柄、新橋と日本橋のあいだということで引き受けざるを得なかった。それが煉瓦街になりそれが引き継がれて今に至っている。そういった意味では西洋と日本との端境をどうやって生きていくかということを経営は150年くらい考えてきたというお話だったと思います。私たちは10年くらいこの街づくり会議の中で、銀座の通りと銀座の中に入った通り、路地も含めて、どういうふうに銀座の街が皆様方と一緒にぎやかでしかも風格のある街ができるかということを考えてきました。そのなかで、銀座ルールというものを作って皆様方にわかりやすいかたちでお伝えしようと努力してきたわけです。今日はいくつか先生にご質問していこうと思います。

1つはカルチャーそのもののお話です。面的な要素をもっている銀座、それから主に銀座通りですが線的な要素をもっている銀座。面的な要素が日本的だとすると、それを今後の都市、今後の銀座にどのように応用し、その価値を評価し高めていけばいいのか。往々にして銀座の中で開発が起きると細い路地は消えていく傾向にあります。でも、皆さんも感じていらっしゃる通り、シェルトンさんも路地はとても大切だと言っています。現実にはだんだん消えていってしまっています。どういうふうに価値を評価して、残して、あるいは作っていけばよいかということ伺いたいと思います。

Extremely difficult. The thing about the small alley, it

has a function as a short cut and an activity place and it may also have a Japanese character. The small alley aspect or the functional aspect of being a short cut or a street can be managed a little more easily than the Japanese character because you can talk to developers in terms of arcades or facade within a development. But the Japanese character is much much more difficult. And I am not actually sure that you can prescribe it. I think it is important to differentiate the functional from the cultural. But even out shorts???? within blocks or alley ways or, perhaps alley ways is not good term but an arcade or whatever through street, that is an important thing itself. Because if you have big blocks within the city, they tend to become internalized and that is bad for the city. So even before Japanese character you need a movement, you need short cuts, you need connections, that's the word, you need connections, through blocks. The blocks must not become too large. But the Japanese one is, I think, far far harder. You can only discuss problems you may or may not succeed. One thing that impresses me about the Ginza's structure here is the willingness to discuss and negotiate of problems. I think that's impressive. And the fact that it is all on a, mostly on a sort of voluntary basis is really impressive.

路地のようなものはまず機能としてとても大切に、近道として通り抜けられる、あるいはそこでのアクティビティといったことがあります。これは非常にわかりやすいことです。そういう機能を温存しようとするなら、それほど難しいことではない。つまり、開発する時にここに路地を作ってください、ファサードを作ってください、あるいはアーケードを作ってくださいとディベロッパーや事業主と話をして作ってしまえばいいのです。機能的にはそれほど難しくはない。それほど難しくはないことはないと思いますが(笑)、比較的やさしい。では難しいことはなにかというと、路地がもっていた人間の生活の文化のような日本的な性格といったものが路地の中に営々と続いてきた、そういったローカルな文化があることがわかっていて、それを守ろうとすると、それをどうやったらよいかは非常に難しい話です。またそれが機能と関係していてどこまでが機能でどこまでが文化かという線引きをするのも難しいので、はっきり言ってお手上げ状態です。けれども、

そういったことを考えて、決して機能だけを優先すればそれでいいのだということではないという忠言をいただきました。それからコネクションが大切で、つなげていくということが街にとってとても大切なことです。路地は通りと通りをつなげてきたものです。そういった意味で、街のあるクオリティー、機能も文化も含めてコネクションを失わないようにするということが指摘されています。実はあとで伺おうと思ったのですが、そのなかで銀座は皆さんと協議型でお話し合いをして交渉しながらもの決めをしていく。それも自発的にやっているということ是非常に尊敬します。つまり、そういう意志をもって話し合っただけでなく、そういう方向にもっていくと努力をされているところに敬意を表します。

I wouldn't like to see what I have seen happened in Hong Kong where you may get a whole block or even two blocks joining perhaps by bridges or underground streets, where the inside of the block is super lively and the particular part of streets outside have very few people or not at all. But you can go to the next block in the city you can see quite crowded. The design of whole blocks structures is really important. And the establishment of connections through perhaps more than one level is important.

事例としてホンコンを挙げます。香港は開発が多いわけですが、ブロック全体を開発したり2つのブロックをつなげて開発する。それは銀座でも起きていることですが、そのときに注意しなくてはいけないのは、そこで起きた開発の中はすばらしく活気に満ちているけれど一旦外に出ると通りがほとんど死に体になっている。中に全部引き込んで賑わいを作ってしまうというのは、絶対にやめたほうがいい。ちょっと思い出すのは、今の6丁目の開発が起きている時に銀座で最初に話し合われたのはそのことでした。すべてお客様がそのブロックの中に吸い込まれていって、銀座の通りが衰退するのではないかというお話もありました。今のようなお話がとても大切で、どうやって通りと中の開発とを共存させるか。その点を聞いてみたいと思います。

There are all sort of different strategies that can be discussed. For instance, a big department store or a big mall is very much dependent on what goes on inside. Its entrances there's nothing to stop for instance very small commercial units lining the street at street level which of course give very high rents and activate a street and they do not detract from the

activities inside. So perhaps you can have both.

中に大きなモールやデパートがあるときに、それが中だけで起きるのではなく、特に通りに面している小さいお店との協調も含めて、通りレベルでアクティビティがちゃんと通りに出てくるような構成を作る。中で起きるのではなく、通りに対して起きるということを考えていかないといけない。

まさに6丁目ではそういうことをお願いし、着々とできてきて、だんだんファサードが見えてきて期待しているところですが、そのお話もお聞きします。

I'm not even sure that you have to have similar sized units. In some ways, the smaller, the more lively the city becomes. You've already got a big operation within the building itself of the mall. So the idea of many small and high rental places around the edge I thought would have been attractive.

大きい開発があることはわかっているわけですから、いっそ小さいスケールで、レンタル料も非常に高いので小さいスケールに区切っていきながら、それを展開するというのが1つの可能性としてあるのではないか。

(Question about signage)

I think actually you've got... the cultural expression or all the expression in sign form in the two cultures is really very different. And the tradition here is very different from the West. It's difficult to combine them. I wonder if you don't really have to have different values applying to different areas of the city. Let's face it. Chuo-dori had its origins in a form which was totally different from the West or the rest of Ginza at the time, quite different. I know that there's the great desire to integrate but when you have things which are so different maybe you have to have different expressions in different places according to the circumstances.

(Ginza street?)

Ginza Street is a unit clearly. I think it's a matter of identifying units of the city which are capable of taking different forms and you are never going to get perfection as you said you are always talking to people. So it's a matter of discussion, education and dialog. But I think one has to have an idea of

what's appropriate for what place. And maybe there are certain areas which are more strictly, if you like, discussed than others.

I think identifying what is appropriate for particular areas is a vision in itself. I mean it's difficult because you are playing with such different items, different conceptions and the moment you mix them which is, of course, Japanese tradition but it's not the industry tradition. Not very satisfactory answer. Sorry. It's difficult.

いま伺ったのは、なかなか難しいサインの問題です。特に銀座通りにおけるサインは、銀座デザイン協議会で常に悩んでいるところです。このサインは日本的なものであるというお話がありました。それを取ってしまうと日本的なものがなくなってしまう。一方で、ザッと出ると、ここは銀座だろうか、新宿ではないかというふうになります。そうするとどのようにサインをコントロールしていったらいいかということをお聞きしました。これは非常に難しいということは知っているのですがとお聞きしたら、その答えは「非常に難しいですね」ということでした。(笑)ただ、あまり混ぜてやろうと思わなくてもよいのではないかと。ミックスや共存は大切だが、日本的なものや西洋のミックスがどういうかたちで混ざるのか、という答えを一生懸命見つけることがなくてもいいのではないかと。銀座通りの使命は西洋を日本に紹介するという使命があったわけで、そういったことで言うと、唯一銀座通りは非常に西洋的な通りであることも事実だと思います。一方、日本の通りであることも事実で、クリアな答えが出

なくてごめんなさいということで、非常に難しいということです。

ちょっと伺ってみたいのは、これはデザイン協議会とも関係があるのですが、そのために僕たちの手法は協議型、つまり話し合いのなかで、その時々でのベストな解答を作っていくことの積み重ねが将来のベストにつながるのではないかとというようなやり方をしています。これは日本的なのかもしれませんが、こういう方法論が果たしてシェルトン先生から見るとどうなのか伺ってみたいです。

Things are always changed. So that has to be a review and has to be an ongoing discussion. What I do things from, this is very much western experience and even where things are optional and for a discussion, I do think that is the best way. I still think that any point of time it is best to articulate some sort of framework, some sort of preference, and now that may not always be adherent to, and discussions may even lead to something better than the people who initiate the discussions that are thought of. I can think of one instance I will not give details but in Hobart where I proposed a solution, the developer came along and indeed built something quite different but it conformed to the same principle it was something I have not envisaged and of course that happens in discussion and that is the advantage of discussion. But I think one has to have some sort of articulate framework to start with because it becomes a base from which to enter into discussion as long as the other party knows it is a discussion and not a rule.



自分もアーバンデザインのコンサルティングをしているなかで、西洋的な考え方もかもしれませんが、最初にフレームワークのようなものを置いてそのベースの上でディスカッションをスタートさせます。そうすることによって、相手方もどういうベースでの話なのかクリアになる。そうでなくて、のべつまくなしにディスカッションするというのはあまり生産的ではありません。ディスカッションの良い点は、実際に経験したことです。自分は考えていなかったことをディベロッパーのほうがこういう原理だからこういうデザインをしたい、こういう開発をしたいと言ってきた時に、実は同じ原理に根ざしていることがわかったのです。ただ、表現が違う、理解が違うことがわかった。なので、原理を共有することがとても大切です。最初のベースをこちら側で用意してあげて、そのうえでディスカッションすることが非常に生産的なディスカッションにつながるのではないかと。ですから、銀座デザインルールを当てはめてみると、ルール化したようなことをあまりしないほうがいいと最初は思っていました。それを1回おいて、それを叩き台にして議論が発展することが大切なのではないか。

ということで、銀座は間違った方向ではなかったという気がするわけです。

竹沢 どうもありがとうございました。最後に蓑原敬さんからまとめのお話をいただきしたいと思います。蓑原敬さんは都市プランナーで、銀座街づくり会議のアドバイザーとして2004年の設立当初より銀座の街の数々の課題に対してアドバイスをいただいています。

蓑原 シェルトンさんはいろいろなことをよくわかっているうえで、世界の枠組みの中でこれからどうしたらいいかということについて非常にサジェスティブなお話をいただきました。基本的な問題は、我々が近代化というときに、世の中は社会経済の仕組みとか技術開発のレベルとかいろいろなかたちで近代化に向かって進んでいくわけですが、近代化というときに近代化＝西洋化ということで最初来ています。明治以来銀座もまさにそれを、銀座はロンドン・マンチェスターみたいなかたちで来たところがあります。しかし今になってみると、ここまで来ると、近代化＝西洋化ではなく、日本独自の近代化をこれからどう進めなくてはいけないかということになってきて、そのときに日本の都市づくりにおけるDNAが何かということが問われます。非常に大事な時期になってきていると思うわけです。日本の都市づくりのDNAについて語った人はあまり多く

ありません。先ほどのお話にあったように、最初はイトウテイジさんという先生とイソザキさんとかそういう人たちが集まって議論をしています。その後芦原さんが出てきて、それから槇さん、陣内さんが出てきました。それから小林博人先生の恩師であるピーター・ローさんという人がイースタン・アジア・モダンという本を書いています。その中で東京の問題を非常に正確に分析していて、問題は近代化＝西洋化ではないと言った時に、ではどういうところから我々が出発したらよいかということになるわけです。その時にモデルはないわけです。どうやったら我々は近代技術の先端を走りながら、尚且つ日本が育んできた非常に深い文化的伝統をそこに投げ込んでいくか。本当は国を挙げてやらなくては行けないのですが、残念ながら国の行政をはじめアカデミズムも含めてほとんどが1960年代くらいまでの西洋近代のイメージにとらわれているために、今日日本の中で起こっていることとか、世界で起こっていることとか、確実に絡み取られていないのですが、シェルトンさんがご指摘くださったように、日本の我々の都市づくりの財産は非常に深いものがあって、そういうもののなかで最も深い財産は実は銀座です。私も銀座に10年以上関わらせていただいた結果、まさにシェルトンさんがおっしゃっているようなDNAをどうするかたちで日本の大規模開発や街づくりのうえで生かしていくのが大きな課題です。街づくり会議を挙げて、あるいは銀座を挙げてそういうことに向かって先導的に走っている時期だと思っています。もはや近代と伝統という話を越えて、次のステップの中で、我々是我々の力で新しい近代をどう開くのかというステップに移りつつあるし、その実験的な試みをやっているわけです。そのことについて、シェルトンさんは今までの日本の都市づくりの歴史を通して我々がやってきたことに対する支えとなるようなお話をしてくださったのではないかと思います。そういうかたちですから、先行馬はいませんし、我々は自分たちでモデルを作りながら銀座の人たちが意識して銀座の人たちがどうしたらいいかということを考えながら作っていくというほかに方法はないわけです。それを皆さんと一緒にやっていくことになると思います。そういう流れのなかで、まさにシェルトンさんがおっしゃったような話が非常に大事だと思います。特に、先だっこの会議で中井さんが指摘していましたが、銀座の中で非常に大事なのは大規模???も大事だが中小のグレーン、小さなお店などが大事ではないかというお話もしています。そういうことをリンクするような路地的な所とか、ヒューマンスケールの空間も大切ではないかということの中井さんは

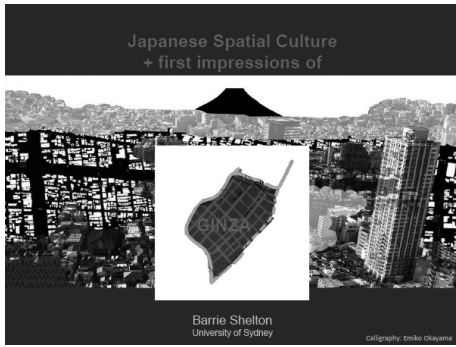
指摘していましたが、そういうことを通して銀座は新しい技術的な社会の中で人と車の共存関係をどうするのかとか、たくさんの人たちがどうするかたちで参画しながら経済的にも繁栄しながら賑わいを維持しながら、尚且つ豊かでたくさんの人たちが来るような街を作っていくのかというようなことをやらなくてははいけません。今日はそういう意味で我々を元気づけるようなお話をしていただいたと思っています。サマリーにはなっていませんが、これからの銀座の方々の発想に期待していただきたいと思います。どうもありがとうございました。

竹沢 どうもありがとうございました。これでシンポジウムの内容は終わりになりますが、最後に全銀座会街づくり委員長、銀座街づくり会議評議会副議長の岡本圭祐よりご挨拶をさせていただきます。

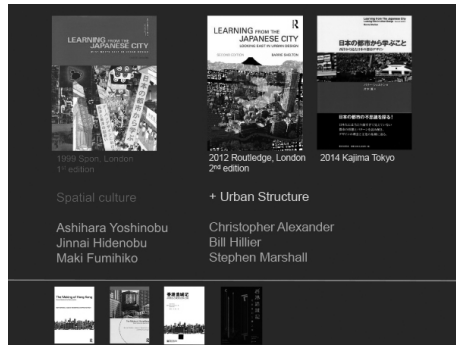
岡本 シェルトン先生どうもありがとうございました。大変素晴らしいお話で、当たり前すぎて我々がちゃんと分析していない線と面という明確な切り口で、賑わいについてあるいは八百万神についてお話をいただき、ありがとうございました。銀座は西洋と日本の独特のミックした街だという要素と、我々はどうしても銀座というと完結してしまった街だと考えがちなのですが、今日のお話のように地理的にも歴史的にも周りとの関係が非常に重要であると。先生がご本のなかで言われているような、外側の???の高い硬い殻というのは逆に他の街がしてくれている。銀座は高さ制限もありますし、やわらかい卵の中身のような街なのかなとも考えています。非常に難しいのは、蓑原先生がおっしゃったように、これからノーモデルなわけで、自分たちで考えなくてはならない。やはり商業ビルの賑やかさは保っていききたい。たとえば、最近よその街に行くと素晴らしい建築様式の大型ビルができていますが、我々の目から見ると、これは商業ビルなのかビジネスビルなのかと頭を悩ませて入りにくいビルがたくさん出てきました。先生のご本のなかにあるように、看板はファサードと一体化していたり、中の業態案内だけでなく、日本においては特に、たとえば「看板を上げる」とか「暖簾を下ろす」とか、業態というよりも屋号そのものであったり、ビジネスそのものを意味している言葉でもあります。そういう点で非常に難しい要素はありますが、芸術的に美しい木製の看板だとか暖簾というのはそれ1つをとっても十分に見応えのある美しい物だと思います。先生もご本のなかで書道は素晴らしい芸術だと書いてくださっていますが、すべての書道が美しいかと言ったらそうではありません。私が書いたとしたらそれは

ただの下手くそな習字です。同じようにすべてのショールームのあり方も然り、デザインの要素、ロゴマークにしても建築物にしても上手いものは上手い、きれいなものはきれい、下手なものは下手なのです。非常に語弊のある言い方かもしれませんが、これからの銀座の街づくりにおいては多くの人が美観の根底となるものを、たとえば上品であったり洗練であったり色はどぎつくなかったり周りとの調和であったり、そういったトーンを共有していくことが一番大事なのではないかなと思っています。また、路地等々を発展させていくためには、情報をどれだけ広く出していきながら、街に長い時間滞在していただいて街を楽しんでいただくという方向に改めて進んでいかなくてははいけないと思います。非常に中身の濃いお話のあとで終わりの挨拶がこれではしょうがないのですが、とてもエキサイティングで、今日は皆さまおうちに帰られてから、あるいは何年越しで考える問題を多々出していただいたと思います。改めてシェルトン先生、小林先生、蓑原先生に大きな感謝をしながら本日の会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

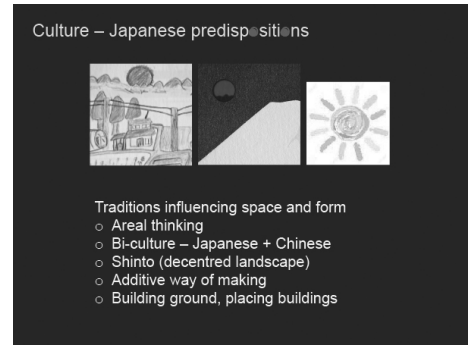
指摘していましたが、そういうことを通して銀座は新しい技術的な社会の中で人と車の共存関係をどうするのかとか、たくさんの人たちがどうするかたちで参画しながら経済的にも繁栄しながら賑わいを維持しながら、尚且つ豊かでたくさんの人たちが来るような街を作っていくのかというようなことをやらなくてははいけません。今日はそういう意味で我々を元気づけるようなお話をしていただいたと思っています。サマリーにはなっていませんが、これからの銀座の方々の発想に期待していただきたいと思います。どうもありがとうございました。



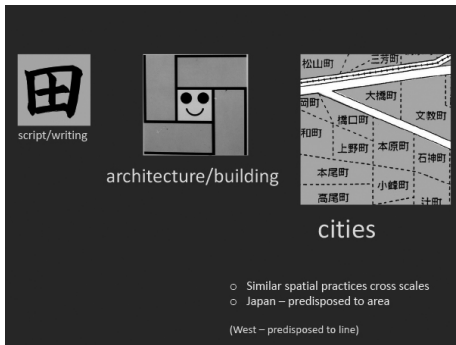
スライド 001



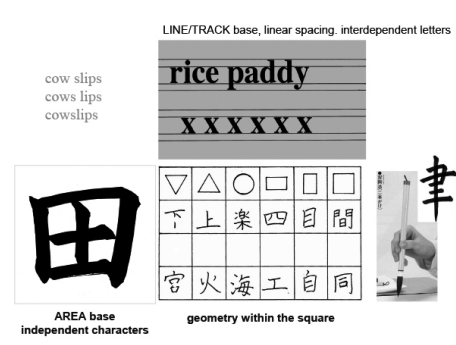
スライド 002



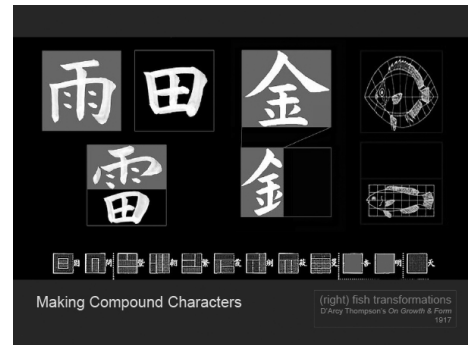
スライド 003



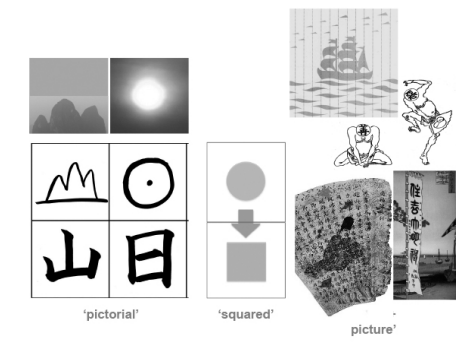
スライド 004



スライド 005



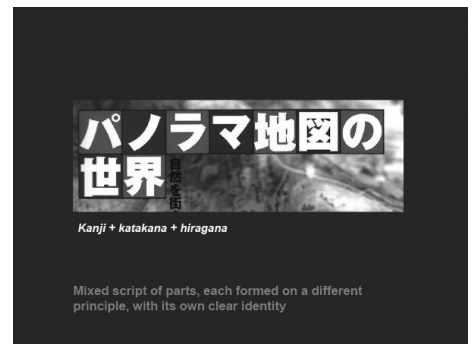
スライド 006



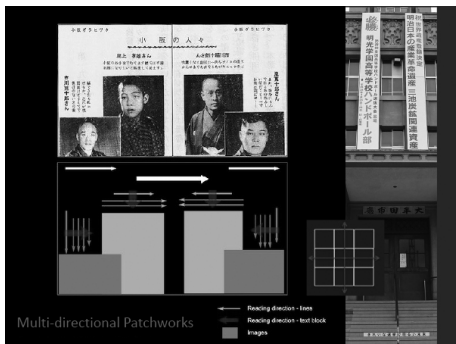
スライド 007



スライド 008



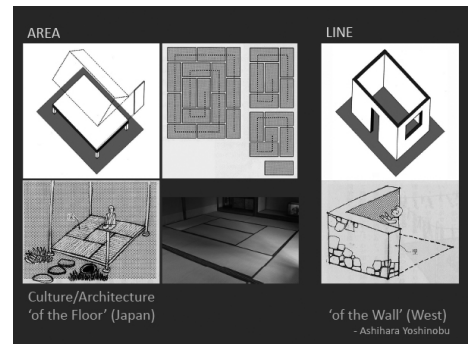
スライド 009



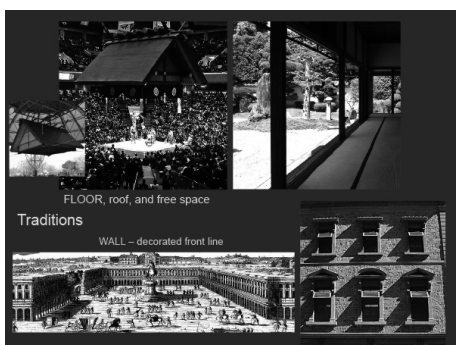
スライド 010



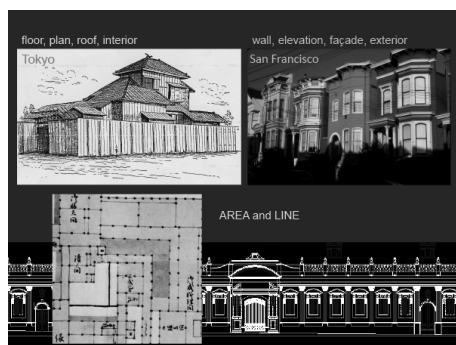
スライド 011



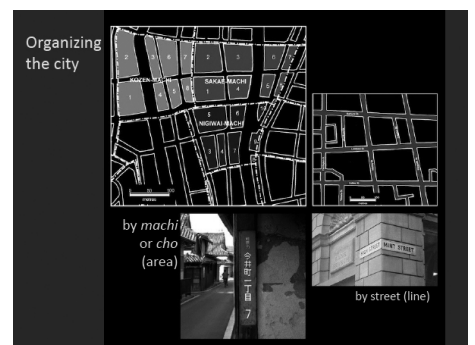
スライド 012



スライド 013



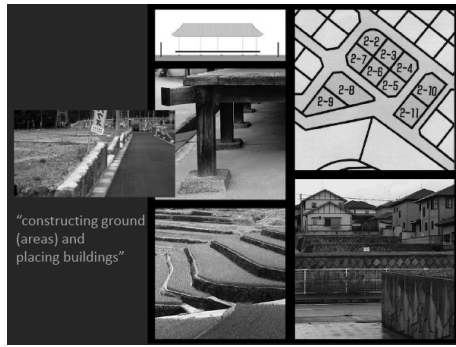
スライド 014



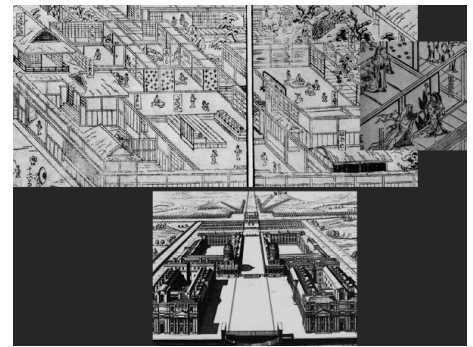
スライド 015



スライド 016



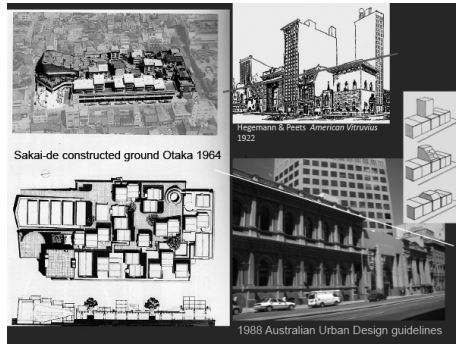
スライド 017



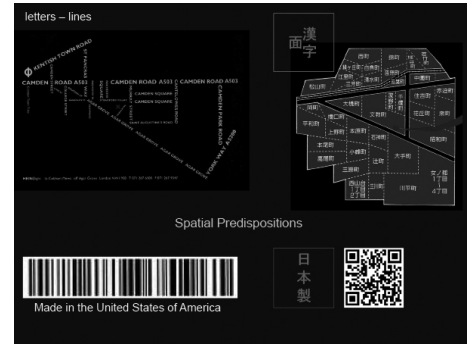
スライド 018



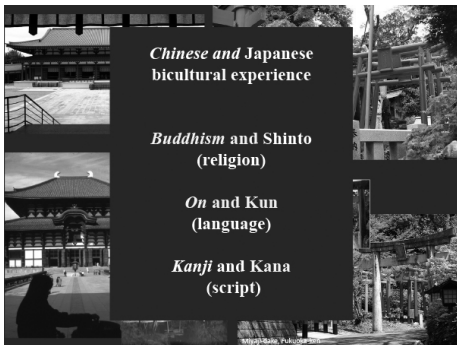
スライド 019



スライド 020



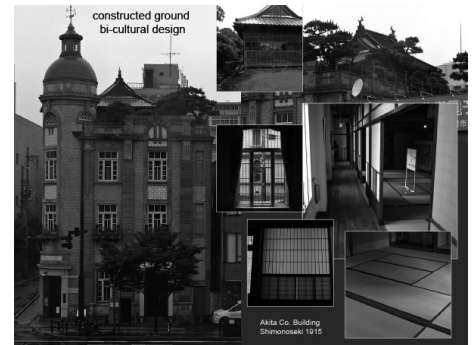
スライド 021



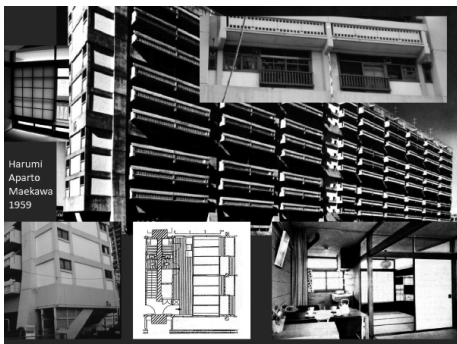
スライド 022



スライド 023



スライド 024



スライド 025



スライド 026



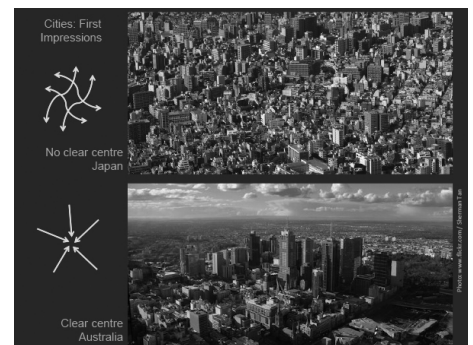
スライド 027



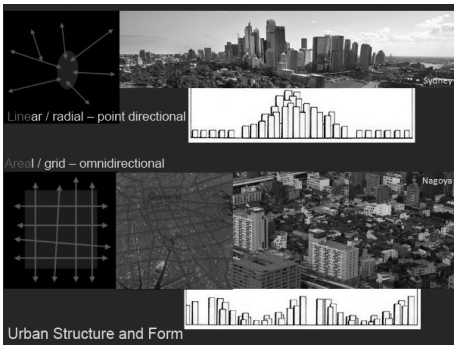
スライド 028



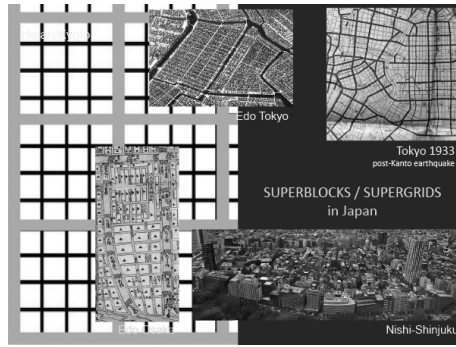
スライド 029



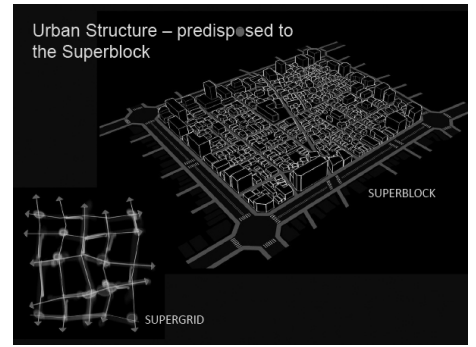
スライド 030



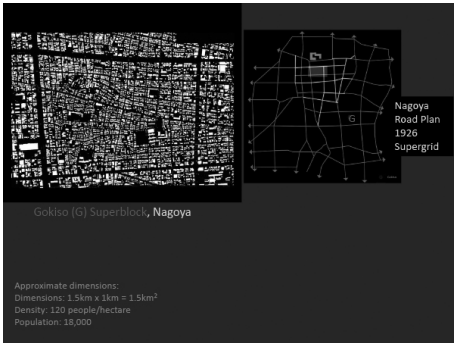
スライド 031



スライド 032



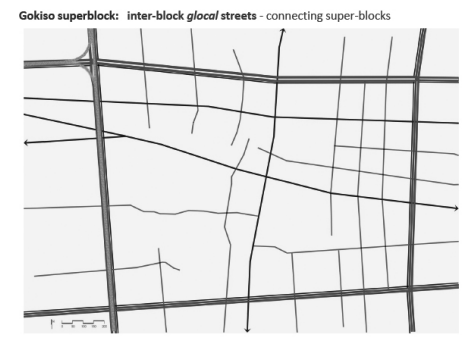
スライド 033



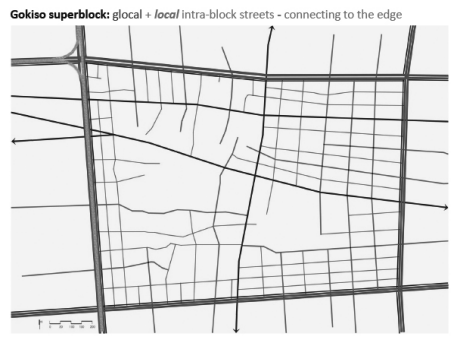
スライド 034



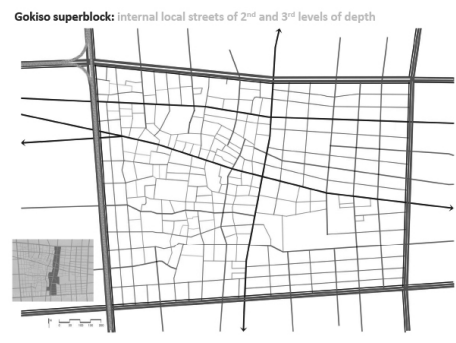
スライド 035



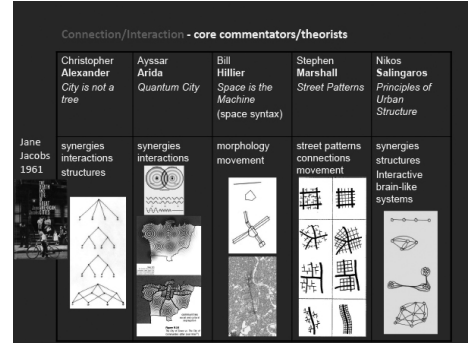
スライド 036



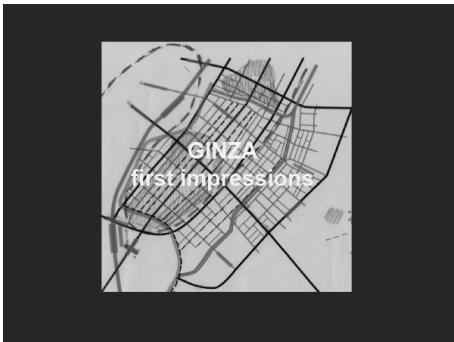
スライド 037



スライド 038



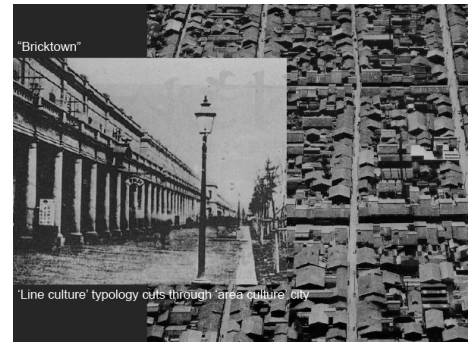
スライド 039



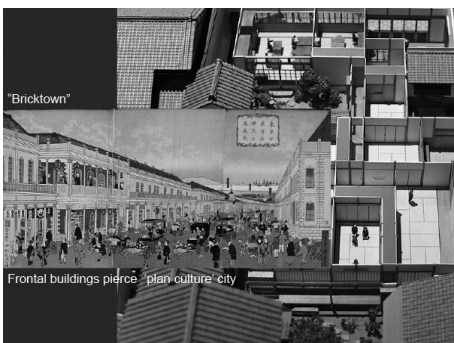
スライド 040



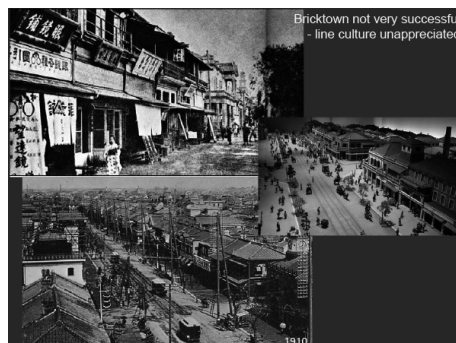
スライド 041



スライド 042



スライド 043



スライド 044



スライド 045



スライド 046



スライド 047

- English as universal language / Japanese as national language (alphabet as universal script)
- Leads to idea that national languages/script are inferior and even ideas expressed in them
- Theories generated in West suggest that Japanese script is not a full writing system
- Several failed attempts to replace Japanese language and/or script
- Western design theory and models constitute a dominant system
- Others are national
- Constitutes a dualism / dual played out in Ginza

Mizumura Minae

スライド 048



Monocle most livable city images

スライド 049



スライド 050

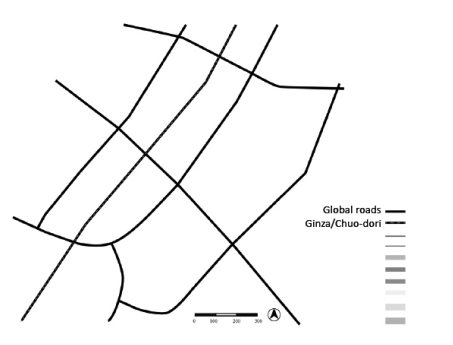


スライド 051



Kyoto Kawara-machi 2015 and 2007
-60% less signs - no animated, no rooftop signs - improvement? (Kyoto Shimbun)

スライド 052



スライド 053



スライド 054



スライド 055



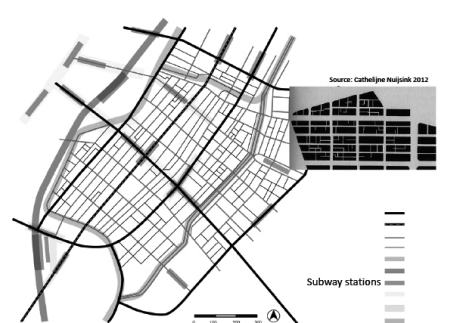
スライド 056



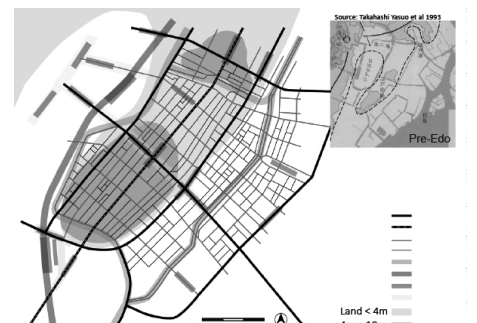
スライド 057



スライド 058



スライド 059



スライド 060

Priorities in Urban Design since the mid-19th century

- Health and Hygiene
- Aesthetics (city as work of art)
- Function (city as a machine)
- Psycho-social issues (city as text and place including heritage)
- Environment (sustainability)

Emerging

- Structure (morphology)
- Culture (anthropology)

スライド 061

What's happening in our cities (society and economy)?

More...

- people living singly or in pairs
- childless or one-child families
- older and active older people

More...

- knowledge intensive jobs (less manufacturing)
- part-time workers
- irregular working hours, including study-and-work
- multiple employers/subcontracting/self-employed
- ad hoc working groups

Boundaries blurring between...

- working - 'living'/recreation
- day - night
- weekdays - weekends

... More people seeking convenient urban living

スライド 062

- Japanese/national AND Western/international culture - with different spatial concepts and attitudes
- Ginza's history highlights this dualism and the strength of Japanese culture.
- But is Ginza now erring on the side of the international to marginalize the Japanese?

スライド 063